

* 労働市場速報（平成27年11月分）について（解説メモ）

1. 有効求人倍率の動向等 【表2a】

- 有効求人数（季調値）は、103,901人で、前月比1.9%増となった。
- 有効求職者数（季調値）は、104,709人で、前月比0.2%減となった。
- この結果、有効求人倍率（季調値）は0.99倍となり、前月から0.02ポイントの上昇となった。

2. 新規求人倍率の動向等 【表2b】

- 新規求人数（季調値）は、36,333人で、前月比6.8%減となった。
- 新規求職者数（季調値）は、23,917人で、前月比2.7%減となった。
- この結果、新規求人倍率（季調値）は1.52倍となり、前月から0.07ポイントの低下となった。

- 主要産業別新規求人数（原数値～前年同月比）は、専門・技術サービス業（4.1%減）、宿泊業、飲食サービス業（13.9%減）、サービス業（4.6%減）で減少した。他の産業は増加した。

全産業では前年同月比7.2%の増加であった。【表4】。

3. 常用新規求職者の態様別動向等 【表5】

- パートタイムを除く常用新規求職者（原数値）を態様別に見ると、離職者（前年同月比1.0%減）、在職者（同0.9%減）、無業者（同6.8%減）でともに減少した。

4. 雇用保険受給者の動向 【表6】

- 雇用保険受給者の動向については、11月の受給者実人員は26,672人で、前年同月比3.8%減少した。

（雇用情勢の概況）

11月の有効求人倍率（季調値）は0.99倍で前月から0.02ポイント上昇。求人・求職の動きは、新規求人数（原数値）は、前年同月比7.2%増加、新規求職者（原数値）については、0.7%減少した。

県内の景気は、緩やかに回復している。雇用情勢については、一部に弱さが残るものの、持ち直しに向けた動きが広がっている。

■景気判断は日銀横浜支店（11月） ■雇用情勢判断は24ヶ月据え置き

今後、雇用情勢について引き続き注視してまいりたい。